

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都千代田区岩本町 2-10-12
園名	岩本町ちとせ保育園 4歳児

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ① 音の変化を楽しもう！
- ② 音をみてみよう！
- ③ 様々な楽器に触れ楽器遊びを楽しもう！

<テーマの設定理由>

声のボリュームや音の大きさを少しずつ意識できるようになり、歌や楽器遊びの中で強弱を楽しむ姿があった。また、筒に向かって声をだし、ボリュームの変化を楽しむ姿が見られた。

遊びの中で廃材制作で自己流楽器を製作する姿が見られたり、リトミックを通じて音階やリズムにも関心を持つ姿があった。

2. 活動スケジュール

- | | |
|-----|------------------------------------|
| 7月 | 音のボリュームに興味をもち、筒の中に声を出して遊ぶ |
| 9月 | 水遊びにて缶を使った音遊びを行う |
| 10月 | 様々な楽器を使って音の変化を楽しむ
音を見る活動を楽しむ |
| 12月 | 様々な楽器に興味を持ち、音を出してみる。
合奏を行って発表する |

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【缶の音遊び】

室内環境：机の上に様々な形、大きさの缶を準備し自由に子どもたちが選んでためすことができるようにしていった。水遊びの際に缶を引き続き持っていき、水の量を出したり足したりするのを十分に楽しめるように設定。

物的環境：キャップ付き缶、じょうろ、割りばし、水

【音を見る活動】

室内環境：椅子に座って全員が見て楽しむことが出来るよう設定。挙手制でやりたい子は前に出てきて少人数で取り組めるようにしていった。

物的環境：音でビーズが弾む装置（紙、プラスチックカップにて製作）、太鼓など

【楽器遊び】

室内環境：部屋を広く使って楽器遊びを楽しめるようにする

物的環境：鉄琴、木琴、ハンドドラム、ハンドベル、ツリーチャイム、大太鼓、小太鼓、和太鼓、トライアングル、タンバリン等

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【缶の音あそび】

- ・室内にて上記環境を設定し、水を加えながら音の変化を楽しむ
- ・水遊びの際に桶から自分で水の量を自由に出し入れして音の変化を楽しむ
- ・缶の形や大きさによって音が変わる事に気付く
- ・水の量によって音の響き方に変化が見られることに気付く
- ・割り箸を使って缶を叩き、強弱をつけながら遊ぶ姿がある

【音を見る活動】

- ・室内にて上記の環境で音の大きさによって装置の中で振動が起きることを見せ、実際に子ども達も試す
- ・自分の声の大きさによって装置の振動が変わることに気付く
- ・大きさを変えてみる姿がある
- ・太鼓やハンドドラムを使って音の振動を見て楽しむ

【楽器遊び】

- ・様々な楽器に触れる機会を設け、音の違いを発見する
- ・楽器で演奏することを楽しみ、楽器に興味を持つ
- ・音楽に合わせて楽器を叩く活動を行う
- ・好きな楽器を選び、みんなで決まった曲に合わせて演奏してみる
- ・発表会で合奏を演奏し、聴いてもらう

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【缶の音あそび】

- ・ 缶の大きさや形によって音が変わることに気付き友達と共有している
- ・ 「次これくらいの水の量でやったらどうなるんだろう？」と水を出し入れしながら音の変化をためる姿が見られる

- ・ 水を少しずつ減らしながら「音がだんだん変わってく！」と音の変化を楽しむ

【音を見る活動】

- ・ 保育士が装置を使って声を出してみると小さい声→「全然反応しない」大きい声「ビーズが揺れてる！」と反応を示す

- ・ 「やってみたい！」と興味を持ち、1人数行くと友達に「もう少し大きな声出してみて」と指示する姿が見られる

- ・ 「大きい声出せる！」と自信満々に挙手し、大きな声で振動する様子を楽しむ

- ・ 太鼓でも強弱をつけて実験をたのしむ姿が見られる

【楽器遊び】

- ・ 様々な楽器に興味を持ち「これやってみたい」「なんかこの音綺麗」と楽器によって出る音が違う事に気付き触れる事を楽しむ姿がある

- ・ やってみたい楽器を自分で選び、演奏を楽しんでいる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもたちが生活の中で声の響きを楽しむ姿がありそこから活動を広げていったが想像以上に音の変化や大きさの変化を楽しむ姿が見られた。
- ・音を実際に見る活動では、普段音を見ることはないため「面白い！」と興味を持って活動を楽しむ姿が見られた。太鼓やハンドドラムを使って強弱は楽しんでいったが、他の楽器では試さなかったため機会があったら試してみたいと思った。
- ・楽器遊びでは昨年よりも様々な楽器を使って楽器遊びや演奏を楽しむことが出来、子どもたちも多くの楽器を知る機会となって良かったと思う
- ・保護者には、楽器遊びの継続した取り組みを伝え、発表会で楽しんで合奏する子どもたちの姿も見てもらうことができた。